

児童の援助要請行動の抵抗感『対象への不信』に焦点を当てた心理教育プログラムの提案とその効果の検証

○菊地亜矢子（一戸町立奥中山小学校）

山本 奨（岩手大学）

キーワード：援助要請行動，対象への不信，心理教育プログラム

問題と目的

文部科学省（2021）によると、令和2年度の自殺した小中高校生の総数は415人となり、過去最多となった。文部科学省・厚生労働省（2018）は、自殺対策基本法を基に「各教科等の授業等の一環として、SOSの出し方に関する教育を少なくとも毎年一回は実施する」よう各校に通知しているが、児童の援助要請行動の抵抗感に迫った授業実践は見受けられない。

そこで本研究では、菊地・山本（2021）で示されている児童の援助要請行動の抵抗感を参考に、3つの抵抗感のうち『対象への不信』に焦点を当てた心理教育プログラムを提案、実施しその効果を検証することとする。

心理教育プログラムの提案

授業のねらいを「様々な不安や悩みへの対処方法として、自分の状況にあった相談相手の条件を考え、相談しようという考えをもつことができる」とした。授業の工夫点として、①自分が理想とする相談相手の人物像を想起する②自分が最優先させたい相談相手の条件を決める③自分が最優先させたい条件に合致する相談相手を探す④スクールカウンセラーを紹介し相談相手の幅を広げる、の4点を考えた。

方 法

調査対象者 公立小学校4-5年生117名（男子64名、女子53名）。

調査時期 2021年5-7月。

調査手続き 学校長に調査依頼を行い、各学級担任に主旨と方法及び児童の安全に係る配慮事項を説明した。調査対象となる児童に対して心理教育プログラムの授業内で説明を行い、第1時でプレデータを、7-10日後の第3時でポストデータをその場で回答を求め回収した。ポストデータから約1ヶ月後に各学級担任に質問紙の配付と回収を依頼し、フォローデータをとった。

調査材料 児童用援助要請行動抵抗感尺度（菊地・山本，2021）。

結果と考察

回答が得られなかった者と無回答項目があった者を削除した後の構成は、4年生48名（男子29名、女子19名）、5年生59名（男子29名、女子30名）計107名であり、回答率は91.45%であった。

心理授業実践後、児童の援助要請行動への抵抗感がどの程度下がったかを検証するために、児童用援助要請行動抵抗感尺度（菊地・山本，2021）の3下位尺度それぞれについて[学年要因]×[援助源要因]×[時

期要因]の3要因混合計画の分散分析を行うこととした。学年要因については、小学校4年生、小学校5年生の2水準を設けた。援助源要因は教師、友達の2水準を設けた。時期要因については、プレ、ポスト、フォローの3水準を設けた。

平均と標準偏差をTable 1に示した。[援助源要因]×[時期要因]の交互作用が有意であった($F(2, 210) = 7.45, p < .01, \eta_p^2 = 0.07$)。その効果量は小さいものであったが、プログラムの修正に資する知見を明らかにするために水準毎の単純主効果を検討することとした。その結果、プレにおける援助源要因が有意であり($F(1, 105) = 7.30, p < .01$)、ポストにおける援助源要因は有意ではなく、フォローにおける援助源要因は有意であった($F(1, 105) = 18.59, p < .01$)。いずれの場合においても援助源は友達よりも教師の方が低かった。教師における時期要因は有意であり($F(2, 210) = 5.51, p < .01$)、友達における時期要因は有意ではなかった。Holm法による多重比較を行ったところ、プレとポストの間には有意な差がなく、プレとフォロー、ポストとフォローには有意な差があった(誤差の平均平方=11.50, $p < .05$)。フォローはプレとポストいずれよりも低かった。

分析の結果から、授業実践後一定期間おいた後に『対象への不信』に関する教師への援助要請行動の抵抗感が下がることがわかった。授業実践後に学校生活を送っている中で、教師が自分にとって信じられる存在かどうかを児童それぞれが考え、信じられると判断した結果であると推察された。一方、『対象への不信』に関する友達への援助要請行動の抵抗感に変化はなく、今回の1時間の授業だけでは『対象への不信』に関する友達への援助要請行動の抵抗感を下げることができないことが推察された。

Table 1 平均と標準偏差

学年	対象	プレ		ポスト		フォロー	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
4年	教師	10.65	5.13	10.77	5.04	9.88	4.34
	友達	11.98	5.64	11.17	4.80	11.63	5.90
5年	教師	11.59	5.55	10.78	5.28	9.41	4.65
	友達	11.98	6.06	11.03	5.59	11.46	5.67

引用文献

菊地亜矢子・山本 奨（2021）. 小学生の援助要請行動を阻害する要因の探索とその測定尺度の試み 日本教育心理学会第63回総会発表論文集，478.